

時事新報

李鴻章の渡來、講和の談判

敵國の請和使李鴻章の一行は豫期の如く昨日馬關に來着したり我全權たる伊藤陸奥の二大臣も既に同地に在りて右の一行を待受けたれば全權委任の手續にして前回の如き不都合を認めざるに於ては談判は直に開かるゝゝなる可し抑も彼が請和使を派遣するに至りたる其事情を如何と云ふに或は今日と爲りては彼に於ても最早や勝算のある可きに非ず若しも今後戦争を繼續するときは北京の陷落も目前にして非常の損辱を蒙らざるを得ず彼の頑冥無知の支那人も茲に悟る所ありて平生の傲慢不遜にも似ず平和論の主張者なる李をして請和使として自から渡來せしむるに至りし次第なれば名も請和と稱すれども其實は力盡きて降伏するものと同様にして其窮迫想ひ見る可し左れば我より指命する條件は一とて聽かざる可し惟命ふれ従ふならんとの説もあれども又ふれに反して驕慢傲慢、死に至るまでも悔ひざるは支那人の特性にして殆んど常理を以て解す可らざるものあり李鴻章が今度の戦争に就き率先して和議を唱へ又自から責任を負ふて使節の任に當りたるを見れば稍や事理を解するものゝ如くなれども彼も亦等しく支那人にして傲慢の性質は免る可らず或は彼の心に於ては強々たる中華の大國を以て苟も日本の如き蕪爾たる小國に對して讓る所あるのみならず世界に有數の人傑として諸外國人さへも感服したる有名な李中堂が自から出でし使すとなれば日本人は之に満足して必ず多きを望まざるゝなるならんなど自から傲慢の慢書と書つゝ來りしやも知る可らず而して彼は其結果を察らして國に歸り日本人を説けて閉口せしめたりなど吹聴し以て自家の勢力を張るの材料に供せんとするの野心もあるとならんれば彼我の望む所は案外の相違を呈するならんとの説もなきに非ず我輩の所見を以てすれば彼が請和の事情は兎も角もとして今や我作戰の計畫は次第に歩を進め連戦連勝の勢に乗じて北京に進入するは數旬の間に在るのみが國內一般の輿論を如何と云ふに彼の驕傲を擲て充分に交戦の目的を達せんとするに非ず只かくの如くせざれば彼等をして自から悔らしむるに足らざるが故に交戦最後の目的として其必要を期するゝもなれば彼の使節にして自から自國現在地位事情を明にし大に悔悟の情を表して實際に北京を失ひたると同様の覺悟を以て和を請はんとならば直に事の落着きを見ゝるゝなるならんれども然らず彼等は悔らずして多少にても自から袂ひ所あるに於ては御苦勞ながら折角の渡來も徒勞に歸し却て新來の珍客を北京に迎ふるに至らんのみ

奏案

自國、俄國、軍新、國民、大手供養部等の各派は交渉の末  
陸軍の要求を順し奉るの上議案を提出するに決し

○決 議 案

末廣重器氏に案文の起草を託し其案文につき昨日議院内にて各派の委員協議するところありしが多少文字を修正し本日の議場に提出するに決つたりといふ

○決 議 案

各派交渉の未陸海の軍隊に慰勞謝儀を贈り且つ講和の時機未だ到らずとの意味を含める此議案を提出するものと決定し末廣重器氏起草の案文に修正を加へ本日の議場に提出するよし

# ○沈没の敵艦

沈沒艦定遠

沈没艦定遠は引揚げて修繕せば或は我用に供し得べきや否や是れ世人の最も聞かんと欲する所なれども各方面の顧問さきに酌に於て進軍の一方に急を告ぐるの今日應艦利用の策を講ずる暇もなければ別に之を取調べたるものもなく唯一見の上に於て説を爲すに過ぎず、つまり水損論にして判然せざれども今各艦員の同艦に對する觀察談を掲げんに同艦は中央の要部全く破砕して前後兩部に中折したるが如くなれどもその實損傷は上甲板の中部に留りて下甲板は左までのみとあるまじく後部の艦底は水雷のために全艦を撃沈したる程なればその損傷小ならざるべしと雖も音に聞えし甲鐵艦が一二の水雷のために再び用ゆべからざる程の大破損あるべしとも思はれず畢竟修繕して復た戰闘に用ひられんよとを恐れ丁提督は自ら命を下して破砕したるものとすれば再度の破砕が果して同艦をして再び用を爲す能はざらしむるまでに粉砕したるや否や其の疑問を解したる上に於て初めて我用に供し得べきや否やを判定し得べし既に自ら破砕して敵の用に供せしめざる覺悟を以て爆發したる以上は悉く破砕して片々と爲すにあらざれば嫌たらざる筈なれども爆發火藥は半ば沈没したる下甲板以下の水底にまで裝置する能はず唯煙筒内の水面以上に於て發火したるものとせば假令其の爆發火藥が如何なるにせよ其の破砕したるものとせば假令其の

## 沈没船引揚の方法

沈没船を引揚ぐるの方法は種々あるべしと雖も潜水器に依りて探海者を下し艦内の大砲、彈丸等重量の大きなものは悉く入れを取外し艦内と艦外との出入口を閉鎖し彈丸のために貫穿したる穴を密閉して艦内の水を排出する時は艦體自ら浮き出づべしとてても艦體の浮みたる以上は漸次海岸の淺き所に引寄せて修繕に着手するを得べし又如何にしても艦の内外を密閉する能はざるものとあらんには干潮の際多くの「うかし」を附し満潮の際に漸次海岸に引寄せる方法もありとしか覓に角潜水者の手を負らざるべからざるは勿論なるに目下氣候嚴寒にして水中に入る能はざるを以て溫暖の時節を待たざるべからず然るに茲に一の舉念すべきは溫暖の時節を待つその間に艦内に於ける食物等鹽分を含める潮流中にありて悉く赤痢を生じ腐敗するものとなきや否やの一事はれなり國師の快復體恤しむに足らずと雖も北洋艦隊の遺物として出来得るならば之を引揚げて我使用に供するものと亦快ならずや

自暴自棄の小蒸汽

工提督の船隊を導きて威海港内に入るや劉公嶋を後擁として堅く籠守するの計を畫し艦隊乗組員が密かに逃亡せんふとを恐れて各艦の小蒸汽を悉く取上げ北洋水師機器局の裏手に乗せてたりその數大小合せて凡そ二十餘隻、中には既に腐蝕して用ゆべからざるものもあらんが或る機關師が氷上を亘りて海岸に近き一汽船に乗りて機關を檢したるに潮水のため機關部の鐵條多くは赤錆を生じて見る蔭もなければ修繕せば使用に供するを得べしと云へり劉公嶋上の戰利品は大砲、小銃、糧食、彈藥等其他高價の者擧て數ふべからず區々たる自暴自棄の小蒸汽類は顧みるに足らずと云へるのまゝに打棄て置かんとする元なければ茲に一言し置くものなり

山東軍情 (三)

木質大小兵船十餘艘悉くその有する所となり損壞の各  
 倭人軍海を捨て去る 倭人軍海を占據するの後或は留  
 り或は去り忽ち無常、日前某艦の官兵其他所に往ける  
 を窺ひ將に襲取せんと欲し行て中途に至る倭兵業に已  
 へて之に據れり蓋し倭人東省の大兵已に集るを知る故

行かん

天津よりの私信にフ  
リング令嬢と結婚の  
可し蓋し少佐をして

に此を捨て、彼に遁  
欲せざるなり  
劉公福に據らんとす  
後倭人未だ一回も  
躍するの兵を一律  
計を爲さんとす  
一水尙は三十里の  
僅に陸兵を持んで  
の一隅を克復する  
兵士二千名、船三  
に兵士二千名、船  
逃兵原精地に歸る  
の中には、まゝ南部  
輪船に乗込みて上  
なり

統帥制を棄れんとせしむるの  
 の時劉公嶋未だ失ひし守を以て東報す李中  
 捕へて行轅に至るを  
 赤口地方に登岸せん  
 岸すを拔するに赤口  
 里(清里)のみ  
 砲臺及び衛署を毀へ  
 邑地方に在て駐紮  
 て倭人兵力の敵すべ  
 棄去らんとし各山と  
 て護衛す倭人仍は割  
 たる多からず大隊  
 車馬絡繹、丁の葬儀  
 堂にありしが去る二  
 商人等紛々として往  
 去年々末頃の英國ア

なりし清國公債は、家  
海銀行に於て約束開  
らず募集をも終りた  
金貨公債三百萬磅  
利子六朱、發行價  
清國從來の外債は既  
至れば皆無となり現  
たるもののみ而して  
開紙上に見えたれど  
所に據れば去年十二  
萬五千磅と前記三百  
今日に至りては尙ほ  
關稅を抵當としたる  
附したり(銀貨公債も  
清政府は何時にても  
は元金と共に金貨を  
上海銀行が之を賣出  
一日半程の間に金  
○ハンチヤツ  
行かんて  
大津よりの私信にフ  
ンダ令嬢と結婚の  
し並し少佐をして